

## [成果情報名] 水稻「恋の予感」の奨励品種採用

[要約] 水稻「恋の予感」は、「ヒノヒカリ」と比較して成熟期はやや遅く、短稈で、収量性はやや多収である。また、高温登熟性にも優れており、食味は同等であることから、夏季高温の著しい広島県の低標高地帯に適性が高い。

[キーワード] イネ、広島県、奨励品種、恋の予感

[担当] 栽培技術研究部

[代表連絡先] 電話 082-429-3066

[研究所名] 広島県立総合技術研究所農業技術センター

[分類] 普及成果情報

---

## [背景・ねらい]

広島県の標高 100m 以下で作付される「ヒノヒカリ」は、近年の温暖化の影響により 1 等米がほとんど収穫できない状況になっている。また、国内の一部地域では玄米品質の低下のみにとどまらず、収量性の低下も生じ始めており、本県南部も近い将来に同様な状況に陥ることが予想される。そこで、「ヒノヒカリ」に替わりうる高温登熟性に優れ、多収で良食味の品種を奨励品種に採用する。

## [成果の内容・特徴]

「恋の予感」は、「ヒノヒカリ」と比較して次の特徴を有する。

1. 成熟期は 4～5 日遅い「中生の晩」である（表 1、表 2）。
2. 稈長は 10cm 程度短く、耐倒伏性は同程度である。穂数はやや少ない「偏穂重型」である（表 1、表 2）。
3. 精玄米重は 106～108% で、やや多収である（表 1、表 2）。
4. 千粒重は同程度からやや重い（表 1、表 2）。
5. 玄米品質は優れ、整粒率も高い。また、胴割れ粒や白未熟粒の発生が少なく、高温登熟性に優れることが示唆される（表 1、表 2）。
6. 穂発芽性は「中」程度である（表 1）。
7. 白米の蛋白含有率は同程度かやや低く、食味は同程度で、良食味である（表 1）。

## [普及のための参考情報]

1. 広島県南部地帯（標高 150m 以下）が栽培適地である。
2. 育成地情報では、葉いもちに対しては「やや弱」であることから、適期防除に努める。
3. 「ヒノヒカリ」の品質低下が著しい低標高地域から順次普及を図る。
4. 普及予定面積は、2015 年に 1,500ha、2017 年には全面的に「ヒノヒカリ」から本品種に切り替える。
5. 全農ひろしま品質管理室は、炊飯米は粘り、甘味および粒感がありシャリがきれいで良食味と評価。

[具体的データ]

表1 奨励品種決定調査における成績（東広島市八本松町原：標高 224m）

品種名	試験年度	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	倒伏 <sup>1)</sup>	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	精玄米重 <sup>2)</sup>		千粒重 (g)	等級 <sup>3)</sup>	整粒率 <sup>4)</sup> (%)	胴割粒率 <sup>4)</sup> (%)	白未熟粒率 <sup>4)</sup> (%)
								(kg/a)	対比(%)					
恋の予感	2009	8.27	10.10	75	1.5	18.1	303	53.3	117	23.3	1下	90.8	0.5	0.4
	2012	8.22	10.02	79	1.0	17.6	383	54.4	99	22.4	1上	87.6	0.1	1.3
	2013	8.20	10.04	80	0.0	19.0	340	69.4	107	23.7	1中	87.7	0.2	1.9
	2014	8.22	10.07	75	0.0	18.9	306	57.0	108	24.0	1中	95.1	0.2	0.7
	平均	8.23	10.06	77	0.6	18.4	333	58.5	108	23.4	1中	90.3	0.3	1.1
ヒノヒカリ	2009	8.20	10.05	86	0.0	18.2	403	45.6	100	22.1	1中	83.9	0.2	0.9
	2012	8.16	9.27	93	2.0	18.0	432	56.0	100	21.7	1中	84.0	1.8	3.6
	2013	8.15	10.02	87	0.0	18.0	423	64.6	100	22.8	1下	78.3	0.4	8.0
	2014	8.16	9.30	84	0.0	18.5	347	52.7	100	22.7	1中	89.7	0.0	1.1
	平均	8.17	10.01	88	0.5	18.2	401	54.7	100	22.3	1下	84.0	0.6	3.4

品種名	試験年度	穂発芽性 <sup>5)</sup>	蛋白含有率 <sup>6)</sup> (%)	食味官能評価 <sup>7)</sup>					
				外観	香り	味	粘り	硬さ	総合
恋の予感	2009		6.2	0.19	-0.10	0.25	0.00	0.60	0.06
	2012	5.0	6.5	-0.45	-0.10	-0.55	-0.35	0.05	-0.45
	2013	5.3	6.1	0.04	-0.21	-0.17	0.13	0.71*	0.00
	平均	5.2	6.3	-0.07	-0.14	-0.16	-0.07	0.45	-0.13
ヒノヒカリ	2009		6.3						
	2012	7.0	6.5						
	2013	7.0	6.5						
	平均	7.0	6.4						

- 1) 倒伏は、0：無～5：甚の6段階評価、成熟期に調査。
- 2) グレーダーの篩目は1.8mmを使用。精玄米重の対比は、標準品種を100とした場合の比。
- 3) 等級は広島県JA農産物検査協会調べ。各等級をさらに上・中・下に区分した10段階評価。
- 4) 整粒率（粒重比）はサタケ社製穀粒判別器(RGQI10A)により測定。  
白未熟粒率は乳白粒率、基部未熟粒率および腹背白粒率の合計。
- 5) 穂発芽性は、2：極易～8：極難の7段階評価。
- 6) 蛋白含有率は90%精米をサタケ社製近赤外分析計(TB15A)で測定。
- 7) 食味官能試験での評価：「ヒノヒカリ」0として、粘りおよび硬さは-3～+3で評価。  
それ以外の項目は-5～+5で評価。\*は符号検定により5%水準で有意差あり。  
パネル数：2009年21人、2012年20人、2013年24人。

表2 奨励品種決定調査現地適応性試験における成績（福山市神辺町：標高 15m）

品種名	試験年度	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	倒伏 <sup>1)</sup>	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	精玄米重 <sup>2)</sup>		千粒重 (g)	等級 <sup>3)</sup>	整粒率 <sup>4)</sup> (%)
								(kg/a)	対比(%)			
恋の予感	2012	8.28	10.05	71	0.0	18.7	333	49.5	102	22.1	1上	92.1
	2013	8.26	10.10	76	0.0	18.5	329	56.3	105	21.6	1中	87.5
	2014	8.29	10.11	79	0.0	19.1	371	62.1	110	23.1	1中	92.2
	平均	8.28	10.09	76	0.0	18.8	344	56.0	106	22.3	1中	90.6
ヒノヒカリ	2012	8.27	10.02	80	0.0	18.4	327	48.5	100	22.0	1中	86.9
	2013	8.24	10.08	84	0.0	19.1	340	53.8	100	21.3	1下	82.1
	2014	8.27	10.06	87	0.0	19.3	390	56.4	100	22.7	1中	92.6
	平均	8.26	10.05	83	0.0	18.9	352	52.9	100	22.0	1下	87.2

- 1) 倒伏は、0：無～5：甚の6段階評価、成熟期に調査。
- 2) グレーダーの篩目は1.8mmを使用。精玄米重の対比は、標準品種を100とした場合の比。
- 3) 等級は広島県JA農産物検査協会調べ。各等級をさらに上・中・下に区分した10段階評価。
- 4) 整粒率はサタケ社製穀粒判別器(RGQI10A)により測定。

(勝場善之助)

[その他]

研究課題名：主要農作物等の優良品種選定・種子生産

予算区分：県単

研究期間：2009～2014年度

研究担当者：勝場善之助、清水健太郎、藤井一嘉